

トップメッセージ

真空技術がもたらす機会を捉え 価値共創の拡大にチャレンジします。

代表取締役社長

岩下 節生

「Ultimate in Vacuum」を実践し 価値を提供し続ける魅力ある企業を目指す

いつの時代も未来は、さらなる豊かさを求める挑戦によって拓かれてきました。まだ見ぬ価値を生み出し、人と地球の未来に貢献する。それが技術開発型企業のあるべき姿です。

私たちULVACは、真空技術で社会的価値を創造するイノベーターを自負しています。誰も成し遂げることがないモノづくりで、アプリケーションの進化を支えることは、ULVACにとってのミッションです。豊かな未来の創造に不可欠な役割を負っていることを、社員は誇りに思い、自信を深めています。

一方、私たちのお客様であるデバイスメーカーは、豊かな未来を具現化するパートナー

として、ULVACに大きな期待を寄せてくださっています。その期待に応えるべく、開発・製造・販売・サービスの各機能を国内外に拡げ、グローバルネットワークで価値をお届けし、お客様にご満足いただいています。

そして、こうした取り組みを長きにわたりご支援いただいている株主・投資家の皆様は、真空技術に秘められた可能性の大きさを認識し、ULVACが実現していく持続的成長と企業価値の拡大を期待されています。その期待に応えて、真空技術が生み出す利益を最大化し、より大きな還元を果たすことが、私たちの責務です。

全てのステークホルダーにとって魅力ある企業として存続するために、私たちULVACは「Ultimate in Vacuum(真空の極限を追求する)」を実践し、価値を提供し続ける魅力ある企業を目指します。

設備投資の回復・拡大により 受注を伸ばし、大幅増収・増益

2024年6月期の事業環境を業界別に俯瞰しますと、半導体業界は、生成AIなどの技術革新を背景に、中長期的な需要拡大が見込まれており、また地政学的リスクへの対応として、世界各地で半導体工場の新増設が進められています。エレクトロニクス業界は、国内外におけるグリーンエネルギー政策の進展を受け、パワーデバイスや各種電子デバイスの技術革新・増産投資を拡大し、中国における国産化投資も継続しています。ディスプレイ業界では、ITパネルを液晶から有機ELへ転換する動きが進み、大型基板の有機EL投資も期待で

きる状況となってきました。産業用電池業界は、次世代EVバッテリーの車載採用は遅延傾向にありますが、中長期的には投資の本格化が見込まれています。

そうした中、3ヵ年中期経営計画を始動した2023年度の営業状況は、お客様の設備投資の回復・拡大を受けて全般的に好調に推移し、受注高及び売上高、各利益項目とも期初計画を大幅に上回りました。

受注高は、パワーデバイスやバッテリーの伸びに加え、ロジック・メモリが回復に向かい、新規顧客の開拓や新工程への参入が成果を上げるなど、私たちが成長ドライバーと位置付ける製品分野が好調に推移した他、リークテスト装置などのコンポーネントや材料関連も増加したことから、前期実績を110億円上回る2,582億円(前期比4.4%増)を獲得しました。この受注高の伸長とともに、売上高は上場来最高水準となる2,611億円(同14.8%増)に達しました。

利益面は、増収効果に加えて利益率の高い半導体及び電子部品製造装置のロット生産とユニット化・モジュール化によるコスト低減が進んだ結果として、売上総利益率は上場来最高水準となりました。

重点戦略を今後の成果につなげ 計画目標の利益水準を目指す

現在推進中の3ヵ年中期経営計画は、最終年度(2025年度)連結業績における「売上高3,000億円」「売上総利益率35%」「営業利益480億円(営業利益率16%)」「ROE14%」「営業キャッシュ・フロー(3年間累計)630億円」の達成を目指しています。

計画初年度は、前述の通り順調な業績を収めることができました。しかし重点戦略に掲げる「成長事業における製品競争力の強化」と「グローバル生産性の向上」は、成果創出の途上にあります。本計画では、成長ドライバー（パワーデバイス、各種電子デバイス、ロジック、メモリ、バッテリー）を強化すべく、3年間合計で750億円の研究開発投資（研究開発設備投資+研究開発費）を予定しており、これを実行しつつ利益目標を達成することは、依然として高いハードルです。

成長ドライバーの状況を述べますと、パワーデバイスは、プロダクトマネージャーを中国へ派遣し、即断即決スタイルの営業で受注を伸ばしています。電子デバイスは、ITパネル用OLEDの量産投資が本格化し、スパッタリング装置のオーダーが増えてきました。ロジックは、2018年に参入を開始したメタルハードマスク工程で順調に顧客を獲得し、さらなる工程参入が進んでいます。メモリも、DRAMのHBM(High Bandwidth Memory) 工程における採用に続き、新工程でセカンドベンダーとしての成長を目指しています。EVバッテリーは、小型大容量化及び安全性向上を実現するための真空技術が期待されており、今後、両面蒸着巻取装置の受注拡大が期待されます。

さらに、コンポーネント品目に分類されるリークテスト装置やクライオポンプ、その他品目の表面分析装置、一般産業用の真空炉など、成長ドライバー以外の製品群による売上も増加しています。これらは、きらりと光るダイヤモンドのような存在であり、今後のさらなる成長に向けて、磨き上げ育てていきます。

また、装置・機器約7,000台の納入先に対するカスタマーサポートの強化が奏功し、保守及び改善・改良サービスが売上を伸ばしています。これらによる事業ポートフォリオの幅と厚みがULVACの新たな強みとなり、収益を下支えしています。

今後は、製品企画力を高めながら戦略購買体制を築き、計画的に生産を拡充する「モノづくり強化」の取り組みを通じて、生産性の向上と利益率の改善を図り、中期経営計画に掲げた利益水準を実現する考えです。

価値を届けるために必要な 社内基盤の強化を推進中

社内では、価値提供を支える基盤を強化し、イノベーション創出の土壌を築くために、さまざまな取り組みを進めています。

その一つが、新たな製品や技術の開発における、お客様や大学・研究機関など外部との共創です。例として、韓国に設立した研究開発拠点「Technology Center PYEONGTAEK」では、次世代半導体製造装置とその製造プロセスを韓国内のお客様と共同開発し、量産技術の確立を目指しています。また日米の半導体材料・装置メーカー10社によるコンソーシアム「US-JOINT」に参画し、お客様・参画企業とともに、次世代パッケージング技術に関する市場の変化をタイムリーに捉えながら、新たなコンセプトを実証しています。外部との共創は、社会の声を広く受け止め、真空技術の活用による価値提供を拡大する上で、極めて重要であると考えています。



価値提供の仕組みにおいては、お客様のニーズを的確に把握し、それを製品の企画・設計に反映しながら、常に品質を担保し、タイムリーに納品する必要があります。私たちは、それらの体制づくりを推進すると同時に、環境に配慮した材料の選定・調達機能や、製品のライフサイクル全体をカバーするサポート機能の拡充を図っています。

こうした取り組みの主体となる人財の育成については、変化への対応力を重視しています。社内表彰イベント「UL-GAIA」を通じて、業務改善や価値創出における成功事例・失敗事例を発表し合い、その経験をグローバルで横展開するなど、グループの一体感を高めつつ、変化に強い人財を育てています。もう一つ重視しているのは、次世代経営層・リーダー層となる中核人財の輩出です。国内外のグループ会社から選抜したメンバーが受講する育成プログラムなどを実施する一方、役員の若手登用を増やしています。

そして、価値提供の前提となる持続可能な経営の実現については、サステナブル経

営推進室が中心となり、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同及び同提言に基づく情報開示、半導体気候関連コンソーシアム(SCC)への参画などの環境対応を行っています。また人的資本経営の実践として、ダイバーシティ推進やワーク・エンゲイジメントの向上に注力しています。

真空技術を土台に、共創の輪を拡大

ULVACは、創立80周年を迎える2032年に向けて、「未来につながる可能性の場であり続ける」という言葉を掲げた「Vision 2032」を発表しています。この「可能性の場」を実現するために、ULVACは真空技術をコアに、多様なパートナーとの共創を通じて様々な価値を生み出すプラットフォームとしての役割を担いたいと考えています。変化のスピードが増す世界では、世の中の多様な人々とそれぞれの得意分野を活かしながら、ともに新たな価値を創出することが必須になってくると考えています。創立以来、真空技術と様々なお客様とのネットワークを蓄積してきたULVACだからこそ、さまざまな人のニーズを受けとめ、人と人、技術と技術をつなぐことができると考えています。共創には、信頼ある企業であることが重要な条件となります。そのために私たちは、一人ひとりがもっと勉強し、知識を備え、技術にさらなる磨きをかけながら、共創の輪を広げてまいります。

ステークホルダーの皆様におかれましては、豊かな未来の実現を目指すULVACのチャレンジにご期待いただき、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。